ノースアジア大学 総合研究センター主催　シティカレッジ2008 後期

民俗学講演会・パネルディスカッション

ナマハゲの過去・現在・未来を探る
―男鹿のナマハゲ行事から―

◆講師・コーディネーター

鎌　田　幸　男　氏　ノースアジア大学 総合研究センター 教授
ノースアジア大学 総合研究センター 雪国民俗館名誉館長
認定こども園　ノースアジア大学附属のびのび幼稚園・保育園長
ノースアジア大学附属さくら幼稚園長
秋田県民俗学会 会長

◆パネリスト

武　内　信　彦　氏　真山神社宮司
日本海域文化研究所 理事長

石郷岡　千鶴子　氏　秋田県民俗学会 事務局長

平　　辰　彦　氏　秋田栄養短期大学 准教授
ノースアジア大学 総合研究センター 雪国民俗館館長代理

◆講演会・パネルディスカッションの概要

日　時　平成21年1月8日(木)
12時30分開場
午後1時～3時45分

会　場　明徳館ビル2階
カレッジプラザ講堂

男鹿のナマハゲ行事は、昭和53年、国の重要無形民俗文化財に認定された。早いもので30年の節目を経たことになる。今やナマハゲは、男鹿の代名詞的存在になっている。

さて旧暦正月15日の晩、ナマハゲは各家々を廻る。一組の数は地区により異なるが、二匹一組が最も多い。恐ろしい仮面をつけ、藁製のケデをまとい、また出刃包丁とカショケ(手桶)をもっている。

ウォー、ウォーと雄叫びを上げて、家に入るやいなや「泣ぐ子はいねがァ」「あぐだいる(親の言うことを聞かない、乱暴なことをする)子はいねがァ」などと威圧的で横暴な言動をくり返しながら家中を動き廻る。やがて主人に促されようにしてお膳につき、問答をしながら歓待と饗応を受ける。そして帰る時に切り餅をいただき、来年も来訪することを約束するものである。「ナマハゲが来ないと正月(新年)を迎えた気分にはなれない」という。ナマハゲは、村人の暮らしに根づいているのである。村人のこうした気持(意識)を理解することが、真にナマハゲを知ることに通じるといえる。国の指定を受けて30年を経たことを契機に、この行事を皆さんと一緒に考えてみたいと思うのである。現代版ナマハゲは、テレビなどのマスコミを通じてその外観的な形相を知る機会は多くあるが、古いナマハゲのスタイルはどうなっているのだろうか。またその本質は何であるのだろうか。

ナマハゲについての古い資料に菅江真澄がかいた一枚の挿し絵(「男鹿の寒風」)がある。仮面、装束、持物ばかりでなく、その解説からは語源もわかる。また肩から腰に吊されている小筥がある。それはナマハゲの原像を語っている。このように一枚の挿し絵は、様々なナマハゲの姿を伝えてくれる貴重な資料である。

本講演とパネルディスカッションでは、過去の恐いナマハゲ、変遷してきた現在のナマハゲ、そして観光などとの関わりから今後どのような歩みをするのか考えてみたいと思う。

入場無料

●お問い合わせ・お申し込み●
ノースアジア大学総合研究センター(40周年記念館3F)
TEL 018-836-6592・4531　FAX 018-836-6530　e-mail scenter@nau.ac.jp
〒010-8515 秋田市下北手桜字守沢46-1　URL:http://www.nau.ac.jp/~center/